



石塀と武家門のある小広場の設計 —城下町の町割が残る歴史的町なみにおける小広場の設計—

株式会社アーバンデザインコンサルタント 大杉哲哉・勝野靖弘・塚田和哉・矢鋪雅史

□設計のポイント

①「武家門」と「石塀」のデザイン

本作品は、歴史的地区の景観構成要素である「武家門」と「石塀」を活用し、周辺の町並み景観との調和を図るとともに、地区へのゲート空間として幹線道路からの景観に特徴を持たせ、隣接住宅と一体的な見え方とした。

②町割を生かした空間整備

江戸時代からの町割が残る地区として、敷地がひとつの宅地としてイメージできるデザインとしながら、幹線道路からは広場全体が見渡せる施設配置とし、広場の中に生活のにおいが残るデザインとした。

③地元住民とのデザインの共有

計画・設計を進める上で、「街なみ環境整備計画」の策定時に地元住民および文化財・建築家等により組織した「美しい中村を守ろう会」と協働し計画づくりを行った。

作品概要

作品名：石塀と武家門のある小広場の設計—城下町の町割が残る歴史的町なみにおける小広場の設計—
所在地：長崎県対馬市厳原町中村地区
発注：長崎県対馬市建設部建設課
設計：株式会社アーバンデザインコンサルタント
大杉哲哉、勝野靖弘、塚田和哉、矢鋪雅史
設計期間：小広場実施設計：平成18年10月～平成19年3月
中村地区街なみ環境整備計画：平成16年7月～平成16年11月
規模：街なみ環境整備事業区域；2.3 ha 対象広場；423 m²
主要施設：石塀、武家門、石壁モニュメント（ベンチ）

作品評

この作品は、朝鮮半島との交流が盛んであった江戸時代の面影を残す歴史的地区の玄関口となる小広場を対象としており、地区の街並み景観との調和を図り、当時の武家屋敷や石塀などの景観要素を取り入れて設計したものである。
地区の入り口空間の象徴、隣接地との調和、歴史的資源の復元という3つの設計方針が、作品として具体的に表現されており、優れたデザイン性も認められた。歴史的空間の復元という、ややもするとかつてのものをそのまま再現することになりがちだが、本作品は単なる復元だけではなく、オリジナリティも感じられる空間・景観に設えた点が評価された。
しかしながら、この小広場だけではインパクトは弱く、街並み全体の環境整備も行っているのであれば、街並み景観づくり全体を作品とすることでインパクトも強まり、情報発信性や発展性、地域の活性化といった作品の広がりもでてくることが期待でき、より高い評価を得られたものと思われる。その点は大変惜まれるところであった。



武家門と石塀を復旧し、武家屋敷通りの街なみの連続性を確保



復元された武家門と対馬を代表するヒトツバタゴのシンボルツリー



手前の石塀は、ベンチとして利用



広場に奥行きが感じられるとともに隣地の石塀、庭木、住宅と一体となった風景となるよう、高さの異なる石塀を配置